

青森からやってきました

日本フットボールリーグ（JFL）所属「ラインメール青森FC」が1月30日（月）、キャンプ地として黒潮町を訪れ、歓迎式典が行われました。

チームは昨年よりJFLに参戦。今年は3月からリーグ戦が開幕されるため、黒潮町内を拠点とし、2週間のキャンプを行いました。

式典では、大西町長が「南国土佐で一年を乗り切れる体力づくりをしていただきたい」と歓迎の挨拶をし、黒潮町からポンカン、黒潮町観光ネットワークからいちごと飲料が贈呈されました。一方チームからは、筋子の醤油漬けとりんごのお土産がありました。監督の葛野昌宏さんは、「青森からは遠いが、練習をする十分な環境が整っている。」と話しました。青森では冬季に外で練習をするのが難しいそう。

「今年には昨年以上の結果を出す」という目標に向け、新年初のトレーニングに励みました。



ラインメール青森F.Cと黒潮町長ほか

津波避難訓練を実施

来町してから9日目の2月8日（水）午前11時、土佐西南大規模公園内の陸上競技場に集まった選手らは、NPO 砂浜美術館の指導により津波避難訓練を行いました。

砂浜美術館・事務局長の山本あやみさんから、過去の震災により黒潮町が受けた被害や、「34・4m」という津波想定高などの説明を受けた後、選手たちは下田の口地区のコウジン山へ避難訓練を行いました。

チームに加入し今年2年目となる赤松秀哉選手は、「今まで各地でキャンプをしてきたが、こういった取組は初めて。実際に避難道を歩くことで、地震が起きた際にはいつでも逃げることができると、知らない土地での訓練に興味を持って参加した様子でした。」



事前説明を聞く選手たち



山頂では町長自ら説明

高知FDスプリングトレーニング

四国アイランドリーグPLUSの公式団体「高知ファイティングドックス」が2月8日（水）から12日（日）まで、黒潮町で春期トレーニングを行いました。

トレーニング初日には、土佐西南大規模公園内の大方球場で黒潮町による歓迎式典が行われ、大西町長や県議会議員・下村勝幸氏から選手たちへの激励の言葉が述べられました。

チームを率いて今年2年目となる駒田徳広監督は、「今年はリーグで勝つ準備が出来ている。このキャンプでその自信を大きなものにしていきたい」と挨拶をし、トレーニングへ意気込みを示しました。練習に励む選手たちも同じ気持ち。センターを守る銀次郎選手は、「優勝が目標。今日から2日間の練習と紅白戦でアピールをしたい」と気合い十分にスタートを切りました。



贈呈品のお米をもらう選手たち



式典の様子

記念植樹・野球教室

チームは11日（土）、入野松原保存会が取り組む松の苗の補植を記念植樹として実施しました。地元・大方中佐賀中連合野球部8人、SKB（西南硬式野球クラブ）14人、四万十ボーイズ25人の球児も加わり、ともに植樹を行いました。

今回植樹をした場所は、大方球場駐車場南側の入野松原で、同保存会委員や球団選手らがスコップで穴を掘り、球児が肥料や苗を入れて埋める共同作業で合計130本（入野松原保存会80本・宝くじ助成金事業50本）の松の苗を植えました。

記念植樹後には野球教室が開催され、参加した野球チームが合同でポジションに分かれ、それぞれFDの選手や駒田監督に直々に指導を受けながら練習を実施しました。



参加者と植樹をするFD選手